



居心地が良く、 歩きたくなる本町通りを目指して

令和7年3月

関市基盤整備部都市計画課
ウォーカブル勉強会



1. 「ウォーカブルなまち」とは
 - ・ まちづくりの動向
2. ウォーカブルなまちづくりの必要性
 - ・ 対象地区の特性
3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略
 - ・ 進め方
 - ・ 取組の状況
 - ・ 現時点の方向性
 - ・ 将来イメージ（活用パターン）

1. 「ウォーカブルなまち」とは

- ・まちづくりの動向

2. ウォーカブルなまちづくりの必要性

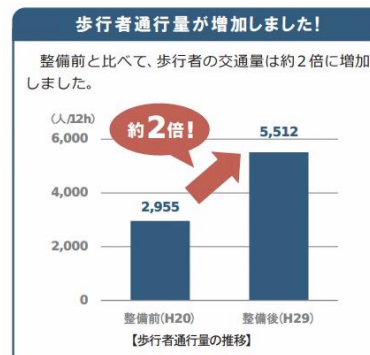
- ・対象地区の特性

3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略

- ・進め方
- ・取組の状況
- ・現時点の方向性
- ・将来イメージ（活用パターン）

まちづくりの動向

- Figure 1 is a comparison of the street environment before and after the improvement project. The left side, labeled '整備前' (Before Improvement), shows a narrow, cluttered sidewalk with a red awning and a motorcycle parked on the street. The right side, labeled '整備後' (After Improvement), shows a wide, paved sidewalk with trees, outdoor seating, and a clear path for pedestrians.



賑わいが生まれました!

広がった歩道では、毎月第3日曜日に、地元商店街が主催でマルシェイベントが開催され、家族連れなどたくさんの方で賑わっています。



出典：松山市資料「花園町通りリニューアル」より抜粋

1. 「ウォーカブルなまち」とは

まちづくりの動向

- 居心地が良く歩きたくなるまちなかには、歩きやすい空間づくりのみならず、“WEDO”の4つの共通する特徴があります。

Walkable 歩きたくなる

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

Eye level まちに開かれた1階

歩行者目線の1階部分等に店舗やラベがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

Diversity 多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open 開かれた空間が心地良い

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。



出典:国交省「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会 中間とりまとめ報告書」一部加筆

【ウォーカブル推進都市】

- 国土交通省は、“WEDO”に賛同する都市を「ウォーカブル推進都市」として募集をしています。
- 関市は、令和元年に「ウォーカブル推進都市」に賛同し、まちなかを車中心からひと中心へチャレンジする自治体として施策を展開しています。

ウォーカブルなまちづくりに共感する地域が増加中！



1. 「ウォーカブルなまち」とは
 - ・ まちづくりの動向
2. ウォーカブルなまちづくりの必要性
 - ・ 対象地区の特性
3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略
 - ・ 進め方
 - ・ 取組の状況
 - ・ 現時点の方向性
 - ・ 将来イメージ（活用パターン）

2. ウォーカブルなまちづくりの必要性

対象地区の特性

■対象地区の特性（本町1丁目～本町8丁目）

- ・ 店舗が営業されているエリアは、商いの促進を図るとともに、街並み景観の維持が必要です。
- ・ 駐車場用地や歩道幅員の広いエリアは、空地や幅員の特性を生かした活用が必要です。
- ・ シャッターが閉まっている空き店舗が多いエリアは、空き店舗の活用を図り新規出店を促すとともに、昭和レトロが残る商店街の街並み景観の維持が必要です。



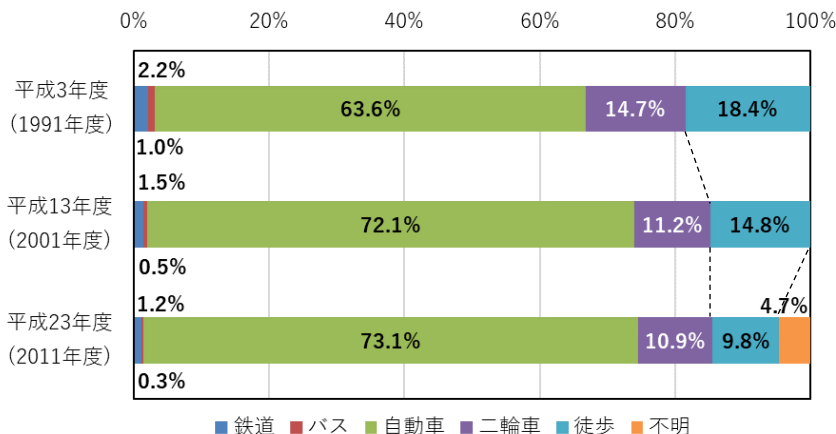
2. ウォーカブルなまちづくりの必要性

対象地区の特性

- 市内の交通手段分担率は、自動車が約7割と非常に大きく、鉄道、バスの公共交通の割合は少ない状況で、徒歩も減少傾向にあります。
- 市街地中心部の交通量は、約9,200台/日で通過交通を含め集中している状況です。
- 土地利用形態は、道路が約2割を占めており、道路と沿道店舗の一体的な活用、多様化する道路ニーズへの柔軟な対応により、道路がこれまでの交通機能に加え、にぎわい創出に寄与できる可能性を秘めています。

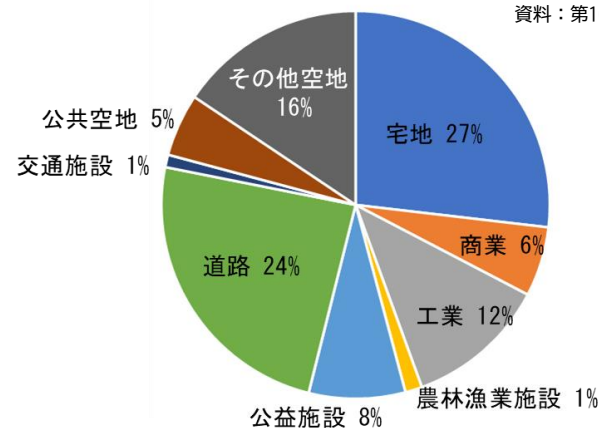
交通手段分担率（市内全域）

資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査



都市的土地利用の割合（都市計画区域内）

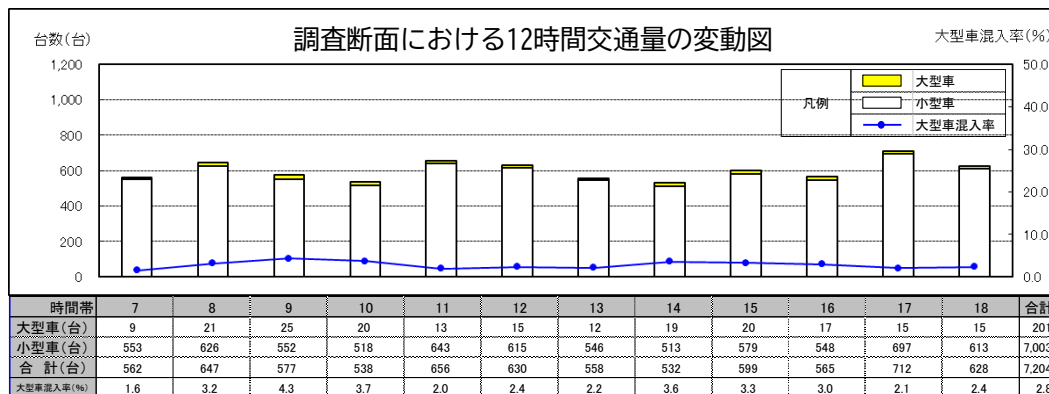
資料：第10回都市計画基礎調査



自動車交通量（本町通り）

【調査概要】

- 調査日：令和6年3月13日（水）
- 時間帯：7：00～19：00
- 調査地：本町2交差点
- 天候：晴れ



12時間交通量：7,204台
24時間交通量：9,221台※

※24時間交通量は、R3交通センサ周辺観測地点の昼夜率平均1.28による推計値



交通の状況

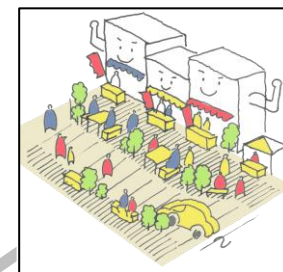
1. 「ウォーカブルなまち」とは
 - ・ まちづくりの動向
2. ウォーカブルなまちづくりの必要性
 - ・ 対象地区の特性
3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略
 - ・ 進め方
 - ・ 取組の状況
 - ・ 現時点の方向性
 - ・ 将来イメージ（活用パターン）

3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略

進め方

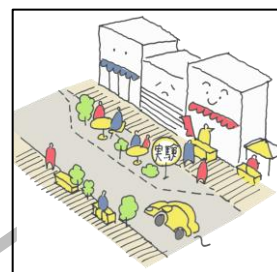
STEP3

行政	- 居心地がよく歩きたくなる環境整備（ハード面） - 道路ネットワークの見直し
民間企業 地域住民	- 沿道店舗の軒先等の日常的な活用 - 空き店舗のリノベーション

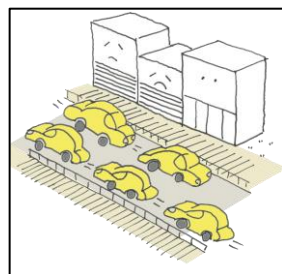
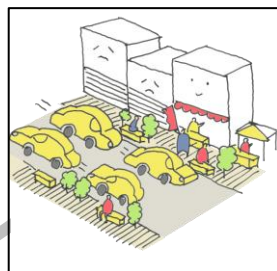


歩車共存の道路空間へ
（ウォーカブル空間）

歩道＋車道空間の試行的活用



歩道空間の試行的活用



通過交通メインの
道路空間

STEP2（令和7年度～）

行政	- 道路空間を活用する社会実験の実施、検証 - 道路占用に係る関係機関調整
民間企業 地域住民	- 沿道店舗等を活用したイベントの定期開催 - 沿道店舗の積極的な利活用、リノベーション

STEP1（令和6年度）

行政	- 公共空間活用に向けた意識醸成 - 歩道空間を活用する生活社会実験、検証
民間企業 地域住民	沿道店舗等を活用したイベント企画運営

3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略

取組の状況

■本町通り商店街エリア ウォーカブル勉強会

○目的

- ・ 本町通り商店街エリアの公共空間や低未利用地の利活用、交流空間の創出を図り、誰もが居心地良く、歩きたくなる、にぎわいのあるまちづくりを進める。
- ・ 地域住民の生活の質を高め、その地域に住みたい人、住んで良かったと思う人、外部からこの地域に関わってみたいと思う人を増やす。

○内容

- ・ 本勉強会は、ウォーカブルに係る先進的な取組について情報収集、知見の共有を行うとともに、地域住民と協働でエリアの将来ビジョンを策定し、実現に向けた社会実験の実施、データ収集、分析等を行う。

○対象者

- ・ 地域住民、観光・商工関係者
- ・ 教育機関
- ・ 行政（都市計画、土木、建設総務、商工、観光、企画広報の各課による推進体制）



ホームページ

これまでの勉強会資料はこちら！

関市 ウォーカブル勉強会

検索

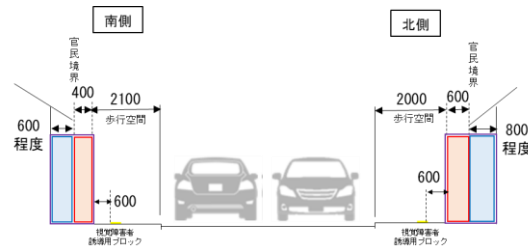
■歩道や軒先を活用する生活社会実験

○目的

- ・ 公共空間利活用に対する地域住民の意識醸成や道路協力団体の発掘、育成
- ・ 沿道環境の変化に伴う歩行者の行動変容調査
- ・ 歩行者中心の道路空間再構築への課題検証や整備内容の検討

○内容

- ・ 歩道と軒先の利活用を検証するため、歩道上に白線を設置し、内側が自由に使用できるスペースとして確保
- ・ 地域住民主体のイベントを企画、実施
- ・ 滞在したいと感じる居心地のよい空間づくり



歩道の活用イメージ



滞留施設のデザイン



歩道や空き地の利活用を図るイベントの開催状況



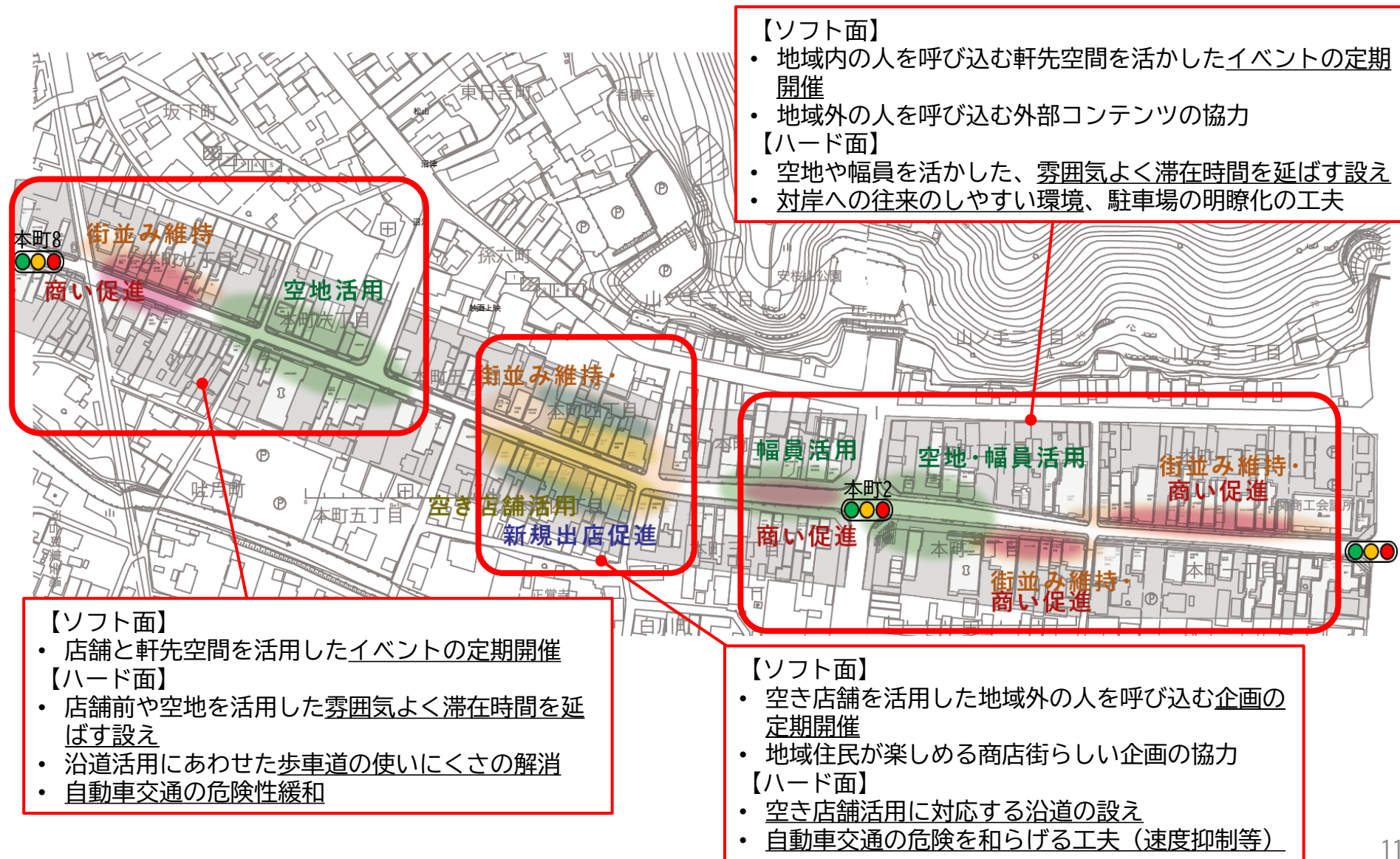
Instagram

本町通りのウォーカブルな情報を発信中！
最新の取組状況がご覧いただけます。

3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略

現時点の方向性

- 歩道や軒先を活用する生活社会実験を通じて、地区の特性から導いた各ゾーンの方針を整理します。



3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略

将来イメージ

- 現時点の方向性を踏まえ、本町通り商店街ストリートデザインver1.0では、歩道や軒先、空地の活用イメージを描きました。

■活用パターン1（空地・幅員の広い歩道部）



歩道や軒先空間の利活用



滞在を促す設え

※将来イメージは現時点の想定であり、今後の社会実験を踏まえ、イメージの見直しや具体化に向けた検討を進めます。

3. ウォーカブルなまちの実現に向けた戦略

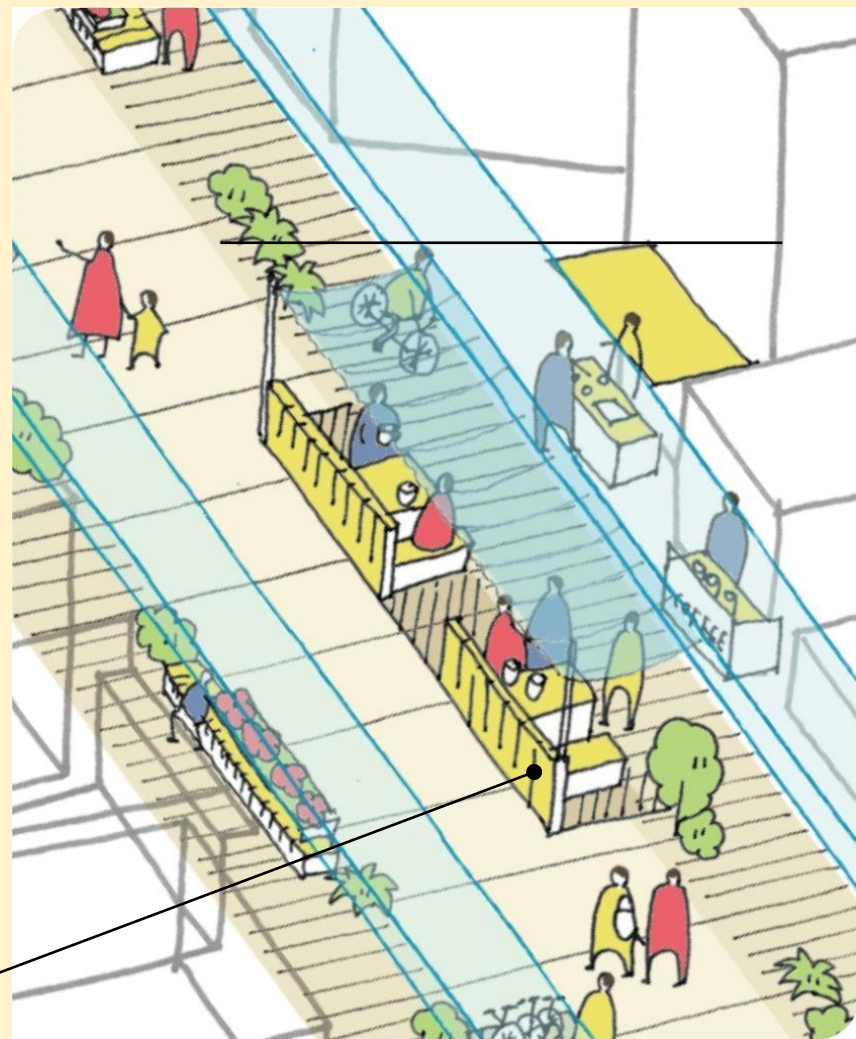
将来イメージ

■活用パターン2（沿道店舗の商い促進・新規出店の促進）



歩道や軒先空間の利活用

アクティビティや滞在を誘発する
店舗前の設え（パークレット等）



※将来イメージは現時点の想定であり、今後の社会実験を踏まえ、イメージの見直しや具体化に向けた検討を進めます。

発行 | 関市 基盤整備部 都市計画課
ウォークブル勉強会
令和7年3月

〒501-3894
関市若草通3丁目1番地
TEL : 0575-23-6734 FAX:0575-23-7746
E-mail : toshikeikaku@city.seki.lg.jp